

場合は、開発調査事業で開発途上国の計画策定作りについても協力をしていますが、そのような案件についてもハードを主体とした従来のサブセクター的な取組みからソフトを多く入れ込んだ複合的な取組みを目指した環境管理全般に渡る開発調査も多くなって来るでしょうし、その利用性もこれから増えてくると思いますので、それに耐えるような形での協力ができる体制をとっていきたいと考えております。

グラハム・フィリップ・アラバスター（ハビタット） 進歩するためにデータを出すということは、非常に重要なポイントだと思います。どの位のコストがかかっているのかを、きちんと分析しなければいけないと思います。先程、インド経済への疫病による被害についてお話をいたしました。実は人々はあのような数字を見た時に初めて理解出来ると私は考えています。我々が、コストの定量化を行い、ソフトウェアを通じてそれを管理手法のために使うということは非常に重要だと思います。特に、自治体レベルでそうしたソフトウェアを活用出来るかどうかがこのからのよりよい行政の鍵を握っていると考えています。

座長 どうもありがとうございます。それでは、以上を持ちまして自由討議を終了させていただきます。この後、福岡大学の松藤教授に総括をお願いするわけですが、ここで15分間休憩をとらせていただきます。

..... 休 憩 .....

#### 会議総括

福岡大学教授 松藤康司

座長 それでは、会議を続けさせていただきます。本日の会議の総括を福岡大学工学部の松藤教授にお願いします。松藤教授のご経歴につきましては、お手元の資料にございますので省略させていただくとして、先生には明日のフィールドワークにおいても、ご指導、ご協力をいただくことになっておりますので申し添えておきます。それでは、松藤教授、よろしくお願いいたします。



松藤康司（福岡大学教授） どうもありがとうございます。福岡大学の松藤です。終日の会議で皆さんお疲れの事と思います。出来るだけ簡単に今日の会議の印象や気が付いた点を報告して、総括にかえたいと思います。まず初めに、今回の実務者会議の第一印象としては、各自治体とも、また報告者それぞれが、本音で議論出来た会議ではなかったかということです。先程の国連の方の自由討議の中にもありましたように、どうしてもこういう会議だとなかなか本音が話せないのですが、非常に本音で議論した会議であったと我々もたいへん喜んでおります。特に、ごみ処理の全般的な収集、運搬、処理、処分という4つの過程の中で、今日は主に収集、運搬それから処分ということを中心に、各都市からの報告をいただきましたが、各自治体ともそれぞれの基礎データに基づき一定

のマスタープランを持って第一歩を歩き出した時点にあるという印象を受けました。経済成長の著しい自治体の方々の集まりですので、このマスタープランもやはり2000年当初にはもう一度見直す時期があるかと思いますが、やはり今一番必要なのは廃棄物処理処分に対する長距離戦略あるいは中短期のマスタープランを早急に策定することだということです。そういう面では本日、発表されなかった都市の方にも大変参考になったのではないかと考えております。その中で特に印象に残ったものは、それぞれの都市に合った処理処分を模索されているということです。特に日本は、必ずしも自信を持って報告出来ないのですが、リサイクル、分別、或いは再資源化を前提にした廃棄物処理を第一歩として、その後の技術の確立が必要であるということ、これはおそらく本日ご参加の各自治体の方の共通の認識ではないかと思っております。残念ながら、日本の30年間のごみ処理の歩みというものは、やはり技術主体に偏ったものの象徴だったと私自身は思っております。そういう面では、リサイクル、分別を前提にした清掃行政を模索しているという認識を、むしろ我々日本の方がもっと積極的に各都市の方々から学ぶべきではなかったかと思っております。それから、おそらく2000年初頭には、この廃棄物問題は近隣の主要都市の共通の課題に必ずなるだろうと感じました。と同時に、この問題解決が各都市の発展を大きく左右する大変重要な問題になる、そういう面ではまさに時差ですね。ここにお集まりの各都市は、1時間あるいは2時間位で飛行機で移動出来るぐらい、あるいは1時間から2時間ぐらいの時差しかない。そのように非常に近隣の都市であるということをお考えますと、お互いに都市の発展の影響を直接または間接的に受けるわけですから、この問題に対して共に取組む、これも共通認識として大切なのではないかと思っております。

それから次に、ごみ問題をどのような将来的なテーマとして考えるかについて、少し私の意見を含めてお話ししたいと思います。インドネシアの方からも紹介がありましたように、ごみ問題は勝つか負けるかという解決の方法ではなくて、正に、共に利便性を得る、あるいは共に成長するとよくいわれるウィン・ウィン・ストレージ、お互いに利益を得るという戦略には一番ふさわしいテーマではないかと思っております。特に環境問題というのは、ご承知のように最終的なゴールはほとんどなく、より高いレベル、より快適であればあるほど望ましいのですから、成功そして失敗も含めて交流を深める中で市民も納得出来るような手法が、多分発見出来るのではないかと私自身は思っております。先程お話ししましたように、環境問題はお互いに利益を得る行為であるという共通認識に立てば、必ず解決の出口が見えるのではないかという考えを持っています。逆に、廃棄物を担当している我々にとって一番恐ろしいことは、市民が無関心になることです。幸いにして現在は、世界的に廃棄物問題が注目されています。ある面ではそれが計画策定の段階で障害になることもあります。考え方を換えれば世界あるいは市民から注目されているということで、それを前進の追い風にして、一步一步前に進むことが重要だということも認識されたのではないかと思っております。

次に、各自治体から関心が持たれた清掃行政の民営化に関する印象を少し報告したいと思います。民営化は、まだまだ各自治体とも暗中模索のレベルだと感じました。歴史的または行政的な背景が違うという情報を十分吟味した上で、長期的に自分達の国に合った民営化の方向を模索する必要があります。特に印象に残ったこととしては、オークランドの方からの報告にありました民営化です。すなわち、歴史ある民営の経験を持つ中で、民営化の一つの方向は清掃事業に対する法規ではなく、公正さと公平さの立場で管理評価が行える体制を持つレベルの高い清掃行政のあり方だということです。往々にして財源的に大変だから民営化にしようという方向も否定出来ない側面ではあります。

けれども、やはりオークランドの方から批評された公正で公平な立場で管理評価出来る、そういう体制の下でのあるべき民営化というものを、もう少し時間をかけて議論する必要があるのではないかと思います。その意味では今回幸いにして、国連、ハビタット、JICA、さらに廃棄物財団の参加も得ましたので、どうしても我々都市レベルでは解決出来ない課題に対してはそちらと積極的に情報交換ができる体制が、この会議の中で確認出来たのではないかと思います。いずれにしても、清掃行政という壮大な課題は、各自治体とも、お金または人、物が必ずしも十分に満たされているわけではありません。我々はよく「ラック・オブ・スリー・M」と言いますが、お金と人と物が無い条件下で、限られた財源の中で行う事業ですから、やはり一步一步前進するしかないのだというのが一番実感として言える言葉です。ステップ・バイ・ステップ、この方法が、この実務者会議を通して少しでも皆さんの記憶に残ればいいのではないかと考えております。

それから、今回は議論が出来なかった環境教育の問題。21世紀を担う子供達への環境教育もやはり非常に重要です。財源的に限られた条件の中で環境教育を充実させるということは非常に意味のあることだと我々は考えております。すなわち、ハビタットの方からも強調された生活改善と健康な環境づくり、この視点と清掃行政が密にリンクした方向がこれから重要になるということを考えますと、環境協力を次の実務者会議のテーマの一つにさせていただきたいと思っております。こういう取り組みは非常に時間のかかる作業であるだけに十分議論する必要があるのではないかと考えております。

最後になりますが、環境、教育、健康というのはやはり最終目標がない課題であり、同時にレベルが上がれば上がる程、我々にとってはメリットが多いわけですから、常に前進していかなければならない、あるいは後退してはいけないテーマでもあるわけです。よって、この実務者会議で議論されたことが現実的な活動計画に具体化出来ればというのが開催都市であります福岡市の希望ではないかと考えております。また、清掃行政とごみ関係の研究をやっています我々にとっての最大の希望でもあるわけです。午前中の基調講演の中でもありましたように、2000年の11月にはアジア太平洋廃棄物物理立会議をこのアクロスで行いたいと、今その準備に入っております。実務者会議に参加された各自治体が本日の成果を持ち帰り、2000年までに発展させたものや豊富な経験を交流出来るそのような場所になればと思っています。多分、この2000年の会議でまた皆さんにお会い出来るのではないかと考えております。最後になりましたけれども、本音で議論でき、なおかつこのような機会を与えていただきました福岡市に感謝するとともに、非常に多忙な中でご参加いただきました各自治体の実務者の皆様にも改めてお礼を申し上げたいと思っております。新しい21世紀にふさわしいアジア太平洋の廃棄物問題克服のために、これからも情報交換を是非続けていきたいと思っております。まとまりのない総括ですけども、これで終わりたいと思っております。どうもありがとうございました。(拍手)

事務局総括

座長 どうもありがとうございました。続きまして、アジア太平洋都市サミット事務局の方から、来年ここ福岡市で開催される「第3回アジア太平洋都市サミット」において、本日の実務者会議をどのような内容で報告するか、まとめていただきます。

村上廣志（アジア太平洋都市サミット事務局長） 長時間にわたる会議、大変お疲れさまでした。各都市の実務者の皆様の参加を得まして、「第2回実務者会議」を大変有意義なものとして執り行うことが出来ましたことに心から厚くお礼申し上げます。特に、事例発表をしていただきました4都市の方には、お忙しいにもかかわらず、快く事例発表をお引き受けいただき、その上、大変参考となる基調な事例を詳細なデータに基づき発表していただき、誠にありがとうございました。また、発表者のみならず、真剣かつ活発に討議され、議論を深められました参加者の皆様にも心から感謝申し上げます。そして、福岡大学の花嶋教授と松藤教授、国連人間居住センター（ハビタット）人間居住オフィサーのアラバスターさん、国連経済社会局計画調整官の米川さん、国際協力事業団企画部の木下課長さん、それから財団法人廃棄物研究財団技監の佐藤さんからは、それぞれ専門的な立場に立ったご意見やご助言をいただき、ありがとうございました。多くの方々のご支援とご協力によりまして、意義深い実務者会議が持てたことに重ねてお礼申し上げます。

さて、本日の会議の内容は、来年7月11日から13日に本市で開催する「第3回アジア太平洋都市サミット」の席で報告させていただきますが、その詳細は、おまかせいただくこととして、次の3点について、ここで了解を得ておきたいと思います。第1点でございます。9ヶ国、18都市から40名弱の実務者の参加を得て、上海市、釜山広域市、ジャカルタ特別市、オークランド市の4都市から事例発表を行っていただき、これを通じて、参加都市相互の理解を深めることが出来、活発な意見交換が行われたとともに多くの情報が交換されたこと。それから第2点は、福岡大学、国際連合、国際協力事業団、財団法人廃棄物研究財団からも参加をいただき、それぞれの立場からの的確なる助言を受け、内容的に充実した意義深い会議が行われたこと。それから第3番目でございますが、「ごみの処理処分」に関する取組みの実態は、都市によってかなりの差があるものの、この会議で収穫した成果を持ち帰り、可能な範囲内で都市行政に反映していきたいとの共通の認識に至ったこと。この3点について、会議の本体であります来年のサミットで報告させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。（拍手）

ありがとうございます。事務局からは以上でございます。

座長 では、これを持ちまして「アジア太平洋都市サミット・第2回実務者会議」を終了させていただきます。朝早くから長時間に渡り、会議の進行にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。